

ドクター メモ

咳喘息せきぜんそく

長引く咳に注意を

咳は、患者さんが医療機関を受診する訴えで最も多い症状のひとつです。咳の診断をする時に持続期間によって咳を分類します。持続期間が比較的短い時は、感染症（いわゆるカゼ）の咳が多く、なかでもウイルスが原因の大部分（約90%）を占めるため、多くの場合特に治療をしなくても自然に治ります。最近では3週間以上の長引く咳を訴えて医療機関を受診する人が多くなってきました。長引く咳は、肺がんや肺結核、間質性肺炎など胸のレントゲンで異常を示す病気でも当然認められますが、胸のレントゲンで異常を示さないケースがほとんどです。

長引く咳の原因として最も多く、また最近増えている病気があります。それはアレルギーが原因で起こる咳、つまり「咳喘息」です。アレルギーが原因で起こる肺の病気としては気管支喘息があ

りますが、気管支喘息の様に急に苦しくなったり、ヒューヒュー、ゼーゼーという症状がなく、咳のみのことが多い、また就寝時から明け方に増悪する、季節の変わり目に起こるなどの特徴があります。特に、咳喘息の多くはカゼに続いて起こります。カゼの後に3週間以上咳が続いたら、この病気を考える必要があります。

また咳喘息は、気管支喘息の前段階と考えられており、気管支喘息に移行する可能性があるため正確な診断と治療が必要です。主な治療は気管支喘息と同じ吸入ステロイドです。たかが咳と思いがちですが、怖い病気の前ぶれかもしれません。長引く咳は、肺の危険信号を表していることを忘れないでください。